

動作確認チェックシート 再動作確認
(クリーンオーブン)

				《温度範囲》	
				室温+50 ~ 200℃	
検査日	2025年 4月 21日	電源電圧	三相 200V	内寸法(W*D*H)	60*48*110cm
型式	DES82H	周波数	50/60Hz	外寸法(W*D*H)	107*109*196cm
メーカー名	ヤマト科学	イナート機構	有り	送風ファン	有り
機械Ser.No	313293R	棚板	有り(1枚)	ダンパー機構	自動
製造年月	1994年 4月				

チェック項目	主な確認内容	チェック(○×)
1 外観	筐体・キャスター・パッキン・ゴム栓・スイッチ等に著しいキズ・破損はないか	○
2 起動動作	POWER ON時に異常(異音・異臭・漏電・暴走・アラーム表示等)はないか	○
3 SW設定	温度設定SW・その他SWの機能は正常か	○(※1)
4 温度調節機能	仕様温度範囲の調節ができるか(定置運転)	○
5 プログラム機能	温度制御機能は正常か(適当な温度を入力し確認する)	○
6 到達時間	温度設定を最大にした時の到達時間	○
7 付加機能	安全装置・ファン・差圧計・オートダンパー・記録装置・パトライト等は正常か	○
8 保管・出荷準備	ビス締め・清掃・フィルタの汚れ・入庫元に関するシール等を取り除く	○
9 確認シール	動作確認済シールを貼る	○

備考(動作確認追記事項・不具合内容)

追番1/2

① 表示関連 条件付きOK(※1)

- ①コントロールパネル メイン表示部 セグメントの点灯が薄い部分有り(右写真) 誤認注意
②記録計付帯 OK

数値表示
8811

② 動作関連 OK

- ①200℃昇温確認 OK(常温~200℃到達に要した時間は約38分)
②200℃到達安定度 OK(到達後、5分間そのまま稼働、槽内温度が若干しないことを確認)
③定値運転 OK
④オートスタート及びオートストップ機能 OK
⑤プログラム運転 OK
⑥温度過昇防止機能 OK(過昇を検知した場合、左側面ブレーカーのON/OFF操作でリセット)
⑦パーティクル測定 OK(社内測定器 リオン製 KC-51を使用し、常温と昇温中に1分間測定を各3回実施)
⑧非常停止機能 OK(左側面ブレーカーが遮断され、オーブンの稼働が停止する事を確認)
⑨ドアロック機能無し OK(扉が開くとコントロールパネルのサブ表示部にメッセージ【door】が点滅表示され、ヒーター及びファンが停止)

取扱説明書(無し)、洗浄度(規格 class100)

修理・改造履歴

年月日	修理・改造記録	作業者

SHIRASAGI 入力

(備考欄コメント)

[責任者]

動作(条件付きOK) 作業工数[5.0H]

初回動作確認年月日 2016年12月26日

検査担当者[天野(正)]

上記①より、条件付きOKと致します



③ パーティクル測定詳細



【条件】

- ①オープン右側面のケーブル孔よりチューブを挿入
- ②ダンパー全閉状態
- ③常温定値で測定
- ④昇温定値で測定



【結果】

常温(28°C)定値
OK



【結果】

昇温(55°C)定値
OK

④ 稼働フロー(設定温度200°C 定値運転)

左側面のブレーカーON(OFFでも一次側に電源が供給された時点で補助パネルの受電ランプが点灯)



コントロールパネル非通电、マノメーター未作動(写真①)



補助パネルのリセット釦押し



コントロールパネル通电、サブ表示部に時計が表示される(写真②)



補助パネルの運転釦を押す

(補助パネルの運転釦を押さずにコントロールパネルの電源釦を押した場合、サブ表示部にメッセージ【door】と表示され、オープンを開始できない)



コントロールパネルの電源釦押し



マノメーターが作動し、コントロールパネル待機状態(写真③)



コントロールパネルの運転メニュー釦で定値運転を選択、設定温度を200°Cに合わせ、実行釦を押す、オープンを開始させる



定値運転を停止させる場合、補助パネルの停止釦を押す

(再起動させる場合、補助パネルの運転釦を押す)

コントロールパネル



補助パネル



左から非常停止釦、受電ランプ

左からリセット釦、停止釦、停止釦

記録計

写真①



写真②



写真③

